



◆活動予定◆

第12回サステナフォーラム&第4回学生サステナフォーラム

日時：3月9日(水) 10:00~15:00

場所：茨城大学農学部こぶし会館2F(第12回サステナフォーラム)

農学部体育館(第4回学生サステナフォーラム)

農学部生協食堂(フリーディスカッション)

プログラム：10:00~11:30 第12回サステナフォーラム

(G.M.KING 教授講演会)

11:30~13:00 昼食+ポスタービュータイム

13:00~14:00 第4回学生サステナフォーラム

(ポスター発表)

14:00~15:00 フリーディスカッション(懇親会)

サステナビリティ学に関する学生・教員の
研究交流を目的とした研究会をポスター発表形式で
開催いたします。今年はルイジアナ州立大学 G.M.
KING 教授にサステナビリティ農学に関するご
講演も予定しています。

年度末の忙しい時期ですが、学生の皆さんの積極的
な参加をお待ちしています。

卒業する学生の皆さんも学生生活最後の研究発表の
機会として、奮ってご参加ください。

参加申し込みなど詳細は ICAS の HP 内
イベント情報にありますのでご覧下さい。

http://www.icas.ibaraki.ac.jp/events/

student-forum20110309.pdf



◆活動報告◆

ICAS & S-8-3 合同シンポジウム開催報告(その1)

去る2011年1月17日、茨城大学水戸キャンパス理学部インタビュ
ースタジオにおいて、“アジア・太平洋地域における適応ネットワー
ク形成 (ICAS & S-8-3 Promoting Synergies Among Adaptation
Networks in the Asia-Pacific Region)” と題する ICAS & S-8-3 (環
境省地球環境推進研究) 合同国際シンポジウムが開催されました。

分かりにくいタイトルのシンポジウムで集客は大丈夫だろうか、と危惧
していましたが、関係者を含め、内外から60名近い方々に参加戴き、主
催者の一人として、ほっと胸をなでおろしたところです。協力いただいた
皆様方にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。



・・・詳しい内容は裏面報告(その2)でご覧下さい

2010年度 ICAS カレンダー

4月	新年度スタート	10月	10/4 第12回 ICAS セミナー
	4/12 第1回 ICAS セミナー		10/5 第1回環境省(S-8-3)セミナー
5月	4/19 第2回 ICAS セミナー	11月	10/18 第13回 ICAS セミナー
	5/10 第3回 ICAS セミナー		10/30 第1回「サステナビリティ学最前線」(大学院)
	5/24 第4回 ICAS セミナー		11/1 第14回 ICAS セミナー
6月	5/28 ICAS キック・オフ・ミーティング	12月	11/2 第2回環境省(S-8-3)セミナー
	6/7 第5回 ICAS セミナー		11/6-7 日本平和学会秋期研究集会(ICAS 共催)
	6/12 第1回「サステナビリティ学入門」(学部)		11/6 第2回「サステナビリティ学最前線」(大学院)
	6/21 第6回 ICAS セミナー		11/13 第3回「サステナビリティ学最前線」(大学院)
	6/23-25 ICSS-Rome(ローマ)		11/15 第15回 ICAS セミナー
	6/26 第2回「サステナビリティ学入門」(学部)		11/15 UN-CECAR シンポジウム(スリランカ)
7月	6/28 W-BRIDGE 最終報告セミナー	1月	11/17 3者連携シンポジウム(三の丸ホテル)
	6/29-7/1 オーストラリア適応国際会議		11/24 ICAS・ELIAS 教育シンポジウム
	7/5 第7回 ICAS セミナー		12/6 農学部国際シンポジウム
	7/10 第3回「サステナビリティ学入門」(学部)		12/11-13 大学の役割シンポ(ハノイ)
	7/20 第8回 ICAS セミナー		12/13 第16回 ICAS セミナー
8月	7/23 グリーン・イノベーション・シンポジウム	2月	12/22 第17回 ICAS セミナー
	7/27-30 ベトナム国家大学・集中講義(ハノイ)		12/27 第3回環境省(S-8-3)セミナー
	8/2 第9回 ICAS セミナー		1/11-14 IPCC・WGII会合(つくば)
9月	8/22-28 Cities at Risk ワークショップ(バンコク)	3月	1/17 ICAS&環境省(S-8-3)プロジェクト合同国際シンポジウム
	8/21-29 国際実践教育演習(ブーケット)		1/20 ICAS 第一部門セミナー“地球規模環境問題研究会”
	9/6 第10回 ICAS セミナー		ICAS セミナー
	9/13-15 国内実践教育演習(大洗)		2/12 IR3S 公開シンポジウム
	9/14-15 ソウル大学ジョイントセミナー		3/2-4 ICSS-Asia(ハノイ)
9/20 適応策国際フォーラム(バンコク)	3/9 サステナ・フォーラム		
9/21 第11回 ICAS セミナー	+第4回学生サステナ・フォーラム(阿見)		
			3/10 ICAS 研究報告会
			ICAS セミナー



*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

◆ 活動報告 ◆

茨城大学農学部国際シンポジウム

「持続的農業に関するアジア・コンソーシアムの構築」

12月5日(日)～6日(月)にかけて農学部阿見キャンパスにて、茨城大学主催の国際シンポジウム「持続的農業に関するアジアコンソーシアムの構築」が開催されました。本シンポジウムは、農業と環境の両者を見据えた次世代の研究および教育についての国際交流を目的として行われ、海外からはアメリカ、カナダ、ニュージーランド、インドネシア、タイ、スリランカ、バングラデシュからと多くの国々からの教員、研究者、そして学生の参加がありました。

5日は、国際シンポジウム「持続的農業に関するアジアコンソーシアムの構築」の第1部にあわせて霞ヶ浦国際シンポジウムも行われ、前半部は、茨城大学研究員のZhaorigetuさん、ウイスコンシン大学スーベリア校のAmy Eliot先生、カナダWorley Parsons社のM.N.Thormannさんから湖沼における環境汚染と環境修復に関する話題提供をしていただきました。後半部は、筑波大学のD.Taylor先生からAg-ESD(Agriculture for sustainable development)の取り組み実績と今後の展望についてお話いただきました。最後のセッションでは学生による研究紹介としてポスター紹介(1分間プレゼンテーション)とポスター発表が行われ、アジアの持続農業をテーマとした研究成果について教員、学生、一般参加者を交えた活発な議論が行われました。

6日は、国際シンポジウム「持続的農業に関するアジアコンソーシアムの構築」の第2部が行われ、気候変動に対するアジアの農業分野からのアプローチとアジアでのサステイナビリティ学教育の実践と展望について講演と討論が行われました。前半部は3題の基調講演があり、まず最初に茨城大学ICAS機関長の三村信男先生から「変化」の世紀に生じた地球規模の諸問題に対して、アジア・太平洋地域におけるサステイナビリティのあり方、さらに新しい大学院教育の挑戦についてのビジョンについて講演いただきました。次に、名古屋大学の浅沼修一先生からは農学知的支援ネットワーク(JISNAS)の取り組みを紹介いただきました。最後のJ.E.Hay先生からは気候変動に対して農業とサステイナビリティ学はどうあるべきかという課題について講演していただきました。後半部は、アジアを中心とした7つの大学から、今後の研究および教育の連携について話題提供をしていただきました。総合討論では、教員、学生そして一般参加者からの質問や意見が交わされ、これからのアジアの持続的な農業と大学教育の在り方に対して幅広い議論が行われました。

本シンポジウムは農学部阿見キャンパスに完成した国際交流会館の竣工式にあわせて開催されました。新しい施設の出発とともにサステイナブルな農業を目指すアジアの大学間で研究・教育活動のネットワークがさらに発展することが期待されます。(佐藤嘉則)



◆ 島田 地域コーディネーターのちょこっとコラム

「サステイナビリティと老舗」

商工会の研修会で、以前、こんなお話を聞きました。

“金沢加賀百万石に代々続く和菓子店、この老舗の多くに伝えられる家訓、それぞれ異なる家訓が伝えられているのですが、どの老舗にも共通して言える家訓の共通点があります。それはなんでしょう?”という問い。

“どのお店にも頑なに守り続ける秘伝の和菓子の製法が伝えられている。”

“違います。”“実は、共通して受け継がれているのは、革新という点。老舗が長く続く秘訣は、何かを長くこだわるのではなく革新をし続けるという所にある”というのです。

この話を聞いて、これはサステイナビリティのお話だと直感しました。時代によって社会や環境が変化し、これまでのやり方が通じなくなった時、自らが形を変え革新し、変化の波を乗り越えることができたお店が現在まで生き残ってきたのだと思います。老舗というのは、革新をし続ける“という経営哲学を、世代を超えて繋いでいるところに、その強みがあるようです。

長く続く仕組みの中には、このような知恵が数多く組み入れられているのかもしれない。私たちの住む社会も、改めて見つめ直すと、持続に係る様々な再発見があるのではないのでしょうか?地域のサステイナビリティはこんな感じで発見できると楽しいのではないかと感じています。

今まで、普通であったことが、こんなに面白いことだったのかと感じることで世界がより楽しく感じられれば、世界を変える“というところはそれほど難しいことではなくなるかもしれませんね!! (島田敏)



◆ メンバー紹介 ◆

安田 真由美

し座・B型・サッカー大好き息子二人の母親



4月からICAS@農学部で事務担当をさせていただいております、安田です。他プロジェクトから合わせますと、農学部には約3年半お世話になっております。

私は高卒なので大学というところは初めての場で、毎日が驚きや発見、勉強の日々です。この仕事は諸外国の方との関わりがとて多く、学生時代に英語を勉強しておけばもっとコミュニケーションがとることができたのに…と、今更ながら悔いています。

先生方にはご迷惑ばかりおかけして申し訳ない気持ちでいっぱいですが、楽しい時間を過ごさせていただいております。

みなさんがスムーズに仕事ができるよう、縁の下の力持ちをモットーに微力ながら頑張りたいと思っております。よろしくお願致します。



最近嬉しかったこと
:美容師さんに「髪の毛質がRIKACOに似てますよ☆」と言われたこと
あだ名: ジャイコ

◆ 活動報告 ◆

ICAS & S-8-3 合同シンポジウム開催報告(その2)

このシンポジウムは、内外にすでに存在する、UNEP, APNなどの国際的な適応ネットワークをどのように融合・形成していけばよいか?を議論して、そのなかから、温暖化適応策の実践にあたって、我が国や茨城大学はアジア・太平洋地域においてどのような役割を果たしていけばよいか?について考えるきっかけにしたい、というのが狙いでした。幸い、関係各国から招聘した研究者・実務者から各国の事情に応じた適応策を効率的に実施していくときに障害となっていることはなにか?その障害を克服するためにはどうすればよいか?について前向きで建設的な意見がたくさん出て今後の研究の指針とすることが出来ました。

たとえば、英国のHuq博士が災害低減に言及して、“それぞれ異なった組織で活動してきた二つのグループ、すなわち、従来の災害防止と低減にかかわってきたグループと昨今の気候変動による災害適応に関わっているグループが一体となって災害リスク低減(Disaster Risk Reduction: DRR)”に取り組みむべき”というコメントが印象的でした。

ICAS 機関長の三村先生も自然災害に関わってきた筆者自身も全く同じ考えを持っていますので一層心に残りました。

併せて、もう一つの狙いだった、開発途上国のキーパーソンをある程度リストアップすることが出来、今後の展開に明るい見通しが開けたことも嬉しい限りでした。アジア太平洋地域の今後を担う若い科学者たちの熱い思いと豊かな人間性に触れることが出来、この地域の将来は明るい、と感じたのは私一人ではなかったと思います。



2011年度(おそらく11月)には、茨城で国際連合大学(UNU)が主催するUN-CECAR(The University Network for Climate and Ecosystems Change Adaptation Research)という組織のシンポジウムを共催で開催する予定になっています。今回の議論がここで引き継がれることを心から願っていますし、そうしたいと決意を新たにしているところです。(安原一哉)

Editor's Note

茨城大学構内の梅も咲きはじめ、春がもうそこまで来ていることを教えてくれているようです。次号の発行は新年度になります。これからも皆様楽しく読んで頂けるICASNEWSにしたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。H・A

